わっかない市議会だより

平成13年2月1日
第94号

新世紀、未来へはばたけ新成人

未来への明るい希望を胸に508名が新成人を迎えました。

発行　稚内市議会
編集　編集委員会
電話　23-6161番(代表)
内線 281

十二月定例会
一般質問から

各会派を代表して6人の議員の一般質問が行われました。主な質問と答弁を紹介します。

日本共産党 斉藤信義議員

乳幼児医療費無料化について

質問 この問題については3月議会で質問したところ、市長答弁では「道の改正内容に注目しながら検討していく」と明言している。現在、新日本婦人の会が全道的に署名運動を展開してきており、道も今年から年齢の1歳引き上げを行ったが、本市は現行の3歳未満に据え置かれている。今日では道内89市町村で道の基準を上回って実施しており、不況が長引き所得の伸びも期待できないなかで、行政としても若い世代を支援すべきと考える。これまでどのような検討がなされたのか。また、新年度で予算化を図るべきと考えるが、市長の見解を伺う。

答弁 道が実施しようとしている医療給付事業の所得制限等の内容について、情報収集に努めながら諸々のケースについて財政負担を含め検討している。道の方針をまって、その内容をにらみながら、年齢引き上げについて前向きに検討していく。

稚内聖苑(火葬場)の改修について

質問 火葬場は人生最後の別れの場所であり、遺族の方々にも良い印象をもたれる施設にすべきである。利用者の苦情等をくみとり早期に改修すべき点があると考えられるが、❶屋根が平面なので雨水が溜まり、ひさしなどに影響をあたえている。水が溜まらないようにするべきでは。❷大型バス等が正面玄関から離れたところにしか停車できず、夏は雨にあたる、冬は氷で滑るなどの苦情があり、改修するべきでは。❸トイレが全体的に不足しており、特に女性用は1カ所しかなく増設するべきでは。これらについて、市長の見解を伺う。

改修が望まれる稚内聖苑

答弁 ❶屋根に溜まる雨水の問題については、原因として排水溝の詰まりが考えられ、定期的に点検・清掃を行うなどの防止策を図っている。❷大型バス停車位置と建物の間の路面凍結等による危険箇所については、この冬に調査して必要な措置を講じていく。❸トイレについては、緊急性を要する課題と判断しており、平成13年度に増設する計画である。

その他の質問事項

- 社会保障制度の改悪について
- 長寿社会を支える地域づくりについて
- ニシンの栽培漁業について
- 子供と文化芸術について

政友会 岡本雄輔議員

教育問題について(市内校における学区の問題)

質問 港小学校の校区は港町に住所を置く児童を対象にしており「稚内小学校・北小学校」の統合による中央小学校と南小学校のマンモス化を解消する目的をもって建設され、最盛期には児童数600名を数えた時期もあった。しかし、同学校区の児童数は減少の一途をたどり本年度は学校全体で6学級しかなく来年度・再来年度の推計では1学級20人を割り込む事態も予想されている。その反面、南小学校は市内1番のマンモス校であり、隣接する地域に異なった規模の学校が存在しているのは市民の目からみても異様に写っている。これらを踏まえ、港小を取り巻く状況と今後の展望についてどう考えているか。また、同学校活性化のため市内学校区撤廃の可能性は。教育長の見解を伺う。

答弁 港小学校の児童数は一般的に言われる適正規模を大きく下回っており、学校経営の大きな課題となっているが、一方では少人数学級の特性を生かした「ゆとりある教育」が行われるなど、学校に対する地域父母の信頼感や期待度は高まっている。しかし、港地区の児童数は今後も減少が予想され、通学地域の見直しは論議する必要があると考えている。教育委員会としては、急激に進む少子化のなかでの学校数や学校規模、通学区域の問題を稚内市全体の課題として今後論議していく。

二〇〇一年 年頭のあいさつ

稚内市議会議長 河合慎一

稚内市民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

平成十三年の初春をむかえ、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから稚内市議会の活動に対し、深いご理解と力強いご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

新しい二十一世紀の最初の年を迎えても、社会経済はまだまだ厳しい状況が続いております。

ご承知のとおり、昨年は大手金融機関・保険会社の提携・合併、大手企業の倒産・リストラ等が行われ、雇用情勢はいまだ厳しく、消費は一進一退の状況にあり、企業の倒産件数も高水準になっています。

このような状況の中で、IT(情報通信)革命の飛躍的推進、循環型社会の構築など環境問題への対応、少子高齢化対策及び便利で住みやすいまちづくりなど都市基盤の整備が早急に必要になっています。

地方自治に携わる我々市議会は、豊かな知識・経験を有する高齢者が意欲と能力に向けて、さらに、将来を担う人間性豊かな世代を育て、活力ある社会を築くことができるように努力してまいります。

今後とも、稚内市議会は常に市民総意によります、生き甲斐のあるまちづくりに邁進していく所存でありますので、市民の皆様には、本年も引き続きご支援・ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

稚内市民の皆様が、ご健勝でご活躍されますよう、心よりお祈り申し上げまして、年頭のあいさつといたします。

地域と連携した宗谷岬観光について

質　問　宗谷岬は夏・冬問わず天気の良い日にはサハリンも展望でき稚内観光のなかで最も定着しており、地元ではさらに観光地として発展させていく上で宗谷岬観光協会が中心となり各種取り組みを行っている。こうした宗谷岬という地理的価値を生かし、さらに生産の拠点である漁業・肉牛生産などと連携した取り組みに対して何らかの支援体制が必要と思われる。また、宗谷港マリンタウン構想に地元の声を十分反映させていくためにも、行政と地元が一体となり事業を進めていく事が必要と考えるが、市長の見解を伺う。

答　弁　宗谷岬は観光客の6割以上が訪れており、本市の代表的観光地となっているが、これからは「最北端」だけでは観光客のニーズに応えられなくなることも予想され、地域の産業や人々との交流を活かしつつ地場産品の提供等、新たな魅力を付加した観光地として整備していかなければならないと考えている。また、宗谷港マリンタウン構想の中で地元生産者と観光客が交流できるような施設の整備も予定されており、今後も関係機関や地域と一体となった取り組みで、宗谷岬をより魅力ある観光地として育てていきたい。

その他の質問事項

- 弁護士不在問題について
- 漁場基本図の作成状況について

市政クラブ　河野至緒議員

人事、職員定数等について

質　問　❶市民が日常活動に関わる部署、施設の多くが市役所庁舎外にあるが、施設の性格によっては、経験豊富な民間人や教職ＯＢに協力をお願いしては。❷職員定数の見直しは、市税を中心とする自主財源をベースに行政ニーズに対し市民と行政の責任を明確にし決定すべきと考えるが、現行の定数条例は20年間も変わっておらず、その在り方が問われると思うが。❸使用料・手数料の見直しは、行革の中で取り組む重点事項だが、内容が明確になっていない。これらについて市長の見解を伺う。

答　弁　❶人事は、役に立つ市役所づくりと職員の公務能率の一層の向上を図ることを基本方針としている。特に各施設は、それぞれ設置の目的が異なるが市民対応の第一線職場であり、職員配置体制に十分配慮していきたい。❷本年4月施行の地方分権一括法による業務量等、行政需要を見極めた職員定数を定めたいと考えている。❸単なる値上げを前提とするだけでなく、施設の利用促進を含めた団体に対する補助金については、民間活力育成策として交付されるべきもので、団体の経常的な運営費まで補助するのは団体の活力を削ぐことになるのでは。❺第三者機関に審査権を付与した稚内方式の補助金交付要綱を検討しては。これらについて、市長の見解を伺う。

答　弁　❶今まで明確にされていなかった補助基準を示したということについては、努力は評価するべき。❷補助金とは本来、自主的活動を支援するものである。しかし助成団体の自立の妨げや始めから補助金ありきになっているならば、行政も助成団体も意識改革をしていかなければならない。❸検証の必要性はあるので現在交付の補助金の内容等を調査し分類したほうが、効果的に果たせるのであれば、整理していきたい。❹現在、補助基準の見直しに向け作業を進めている。団体への補助金が既得権化しないようチェック体制とシステムづくりが必要。❺全面的に第三者機関に委ねる方式を採用しようとは考えていない。補助金を再検討し整理したうえでそのような方法が効果的であれば検討課題として考えていく。

その他の質問事項

- 都市計画について
- 環境問題について

市民クラブ　中井淳之助議員

補助金について

質　問　❶行政改革の中で取り組まれた補助金の見直しは不十分な結果に終わったと思うが。❷現状の各種補助金について民間出身者としてどのように認識しているか。❸委託事業と補助事業の明文化を図っていくべきでは。❹民間検討作業の結果改定の必要性が生じた場合は平成14年度当初からの実施に向けた提案をしていきたい。

産業振興について

質　問　❶これまでの漁業振興策は沿岸漁業構造改善事業を中心とした部分的な取り組みに終わっており、長期的生産計画に立った振興策と年次計画を打ち立てるべき。❷ロシアの禁漁、禁輸政策が実施された場合の市への影響は。❸農業は、農家負債の累増や後継者不在、それに加え国内生産地間の競争が激化している。稚内酪農の将来を考えると集団化、団地化の方向性を明確にした上で農協の合併と年次的振興計画を進めるべきである。これらについて、市長の見解を伺う。

答　弁　❶漁業情勢は、厳しい状況にあるが、国や道は再構築の動きがある。本市でも漁業関係者が水産業を検討する場を本年中に設置予定であり、国や道の施策と整合性を取り、地域に合った振興対策を確立していく。❷貿易量が減少すると、地域経済に大きな影響が出ると想定される。行政としても情報収集を行い的確な状況把握に努めたい。❸加工原料乳価格の決定に市場制度が導入され乳価が下がることが予想されるため一層の経営体質の強化を図らなければならない。そのためには経営の共同化・法人化による規模拡大も推進すべき方向であると考えている。また、農協の合併問題は、酪農を取り巻く環境の変化等で必要性は認識しており、経営安定のために合併推進に向けての環境づくりに指導・助言をしていきたい。

その他の質問事項

- 都市計画について
- 環境問題について

新図書館建設について

質　問　❶図書館協議会の答申結果をそのまま基本構想・計画とするのではなく、市民との検討をふまえ基本計画にすべきでは。❷基本設計・実施の段階において、意見や評価を受けそれを活かした施設づくりにすべき。❸今回の図書館建設で行った市民要望を反映させるプロセスを共通化した手続として行っていくべき。❹現図書館の後利用計画について白紙から検討すべきであり、本庁舎の一部移転先と併せ検討しては。これらについて、市長の見解を伺う。

答　弁　❶協議会における議論もとりまとめ作業に入っており、現時点での計画骨子に係る、中間答申として、整理したうえで公開し意見、評価を受けながら最終的な計画にまとめたい。❷市民に計画や事業の中身を分かりやすい形で示し、意見を聞きながら、市民の望む図書館づくりを進めていきたい。❸今回の図書館建設は、市民要望を実践したもので今後も同様に進めていきたい。❹今後も各層の意見から、最も良い方法を選択していきたい。また、福祉センターは、現図書館機能の検討結果に左右されるので、どのような利用が有効かつ効果的なのかを総合的に判断していく。

その他の質問事項

●公共施設の管理運営の外部委託について

●年末年始の行政サービス

民主クラブ　長谷川　喜　市　議員

大型ゴミ有料化について

質　問　6月定例会で、一般廃棄物処理の基本計画の内、リサイクルや市民の協力についての質問に対し、リサイクルは広報などで周知徹底し、分別収集した資源物の行方や市民の協力状況を一目で分かるようにすると答弁してるが、それが具体的になっていないうえ基本計画が改定されて5ケ月しか経っておらず、市民に周知されたとは思われない。このような状況下で、なぜ今大型ゴミの有料化なのか、家電リサイクル法施行に合わせ他都市と足並みを揃える必要があるのか、市長の見解を伺う。

懸念される大型ゴミ有料化

答　弁　大型ゴミの有料化については、ゴミ処理に関して一定の市民負担の導入を行うことによりゴミに対する関心を深め、排出抑制・減量化の促進や廃家電リサイクル法により従来大型ゴミであった冷蔵庫等に新たな費用負担が定められ、法との均衡を考慮する必要などから、収集経費の一部負担をお願いするものである。大型ゴミの取り扱いについて、町内会を中心に十分な周知を図るとともに資源リサイクルの結果が市民に見える工夫についても、リサイクルの売却益金を市民が実感できる形で還元できる方策を検討している。

乳幼児医療費について

質　問　本市の乳幼児の医療費助成は、初診時一部負担を除いて入院・通院とも対象年齢が北海道の基準と同じで、北海道は平成12年4月より補助率を引き下げ、更には所得制限を設け補助金総額を減らす審議を行っている。本市は福祉充実をより確かなものにする事が重要であり、後退させることなく少子化に歯止めをかけ、安心して子育てができる一つの方策として、通院医療費助成の対象年齢を就学前まで引き上げるべきと考える。引き上げやその時期等について市長の見解を伺う。

答　弁　現在、乳幼児医療費の給付事業は北海道の助成事業として、6歳未満児の入院及び3歳未満児の通院に対し無料化を図っている。更に、市単独事業として、初診時一部負担金を上乗せしているところである。年齢引き上げについては、北海道が実施しようとしてる医療給付事業の所得制限等の内容を見ながら、平成13年4月を目処に前向きに検討している。

その他の質問事項

●集中豪雨に対する対策について

●図書館建設について

公明党　館　農　恒　一　議員

北方圏国際都市をめざして

質　問　サハリン情報によると、2002年に間宮海峡を通ってサハリンと大陸を結ぶ鉄道トンネル敷設の準備作業が始まる予定と報じられている。その際、宗谷海峡を通って稚内とサハリンを結ぶ橋についても討議されているとも報じられている。このような状況の中サハリンとの関係強化は勿論のこと、21世紀はその背後にあるロシア本国や中国・韓国等との関係づくりやサハリンと稚内間の橋の建設運動を積極的に推進すべきと思うが市長の見解を伺う。

マリンタウン構想
（イメージパース）

答　弁　サハリンの経済は、サハリン大陸棚地下資源開発プロジェクトの進展により確実に向上し、デパート等は韓国・中国製品が溢れている状況から、今後は大陸との関係づくりも必要と考えており設置を検討しているサハリン事務所で推進していく。また、架橋等の建設は、技術的には実現可能な状況にあるが、膨大な費用を要し早期の実現は無理と思うがユーラシア大陸につながる夢のある構想なので実現に向け活動を続ける。

大沼について

質　問　大沼の遊水地計画が平成13年度から本格的に始まるが、この機会に観光資源づくりとして、沼の浚渫を国に働きかけ白鳥観察だけでなく、釣りやボート・カヌー遊びなど観光面に活用することで、道立宗谷ふれあい公園との相乗効果で稚内観光の目玉の一つになると思う。また、浚渫によって出る汚泥を利用し「中の島」建設は考えられないか。国に働きかけ大沼の観光資源化を図るべきと考えるが市長の見解を伺う。

答　弁　大沼遊水地計画は、平成8年度から北海道開発局により進められ、平成18年度に全体完成の予定である。推進にあたっては、大沼周辺整備事業連絡調整会議を設置し、計画の調整及び多面的な活用について検討を行っているが、農業振興地域等の指定を受けていることから、開発行為については慎重な対応が必要である。今後もこれらとの整合性を図りながら、中の島建設を含め、関係者のご意見を伺いながら国へ要望していきたい。

その他の質問事項

●21世紀のまちづくりについて

(1)まちづくり委員会の条例化

(2)住宅地整備

(3)障害者や高齢者にやさしいまちづくり

(4)新図書館立地と南稚内駅周辺開発

●冬季スポーツ振興について

議案特別委員会から

議案特別委員会では、各会計補正予算、各条例案等の審査を行いました。主な質問要旨を紹介します。

◇ごみのリサイクルに関して（古紙回収など）

- 回収を一部実施しての問題点分析と今後の課題は。また、新たに実施した二町内はどこか
- 市民への周知方法の具体化は
- 説明会は判りやすかったが、出席できなかった市民への周知は
- 直営、委託のどちらかで行うのか
- 全市的に行なった場合の採算が取れるのか、その試算内容は
- 今のごみステーションは、雪や雨の際に古紙がぬれて適当でない
- びん、かん類は適正にリサイクルされているのか
- 市民周知に要する期間が短い、将来に向けごみ減量化の徹底を
- 分別、リサイクルの将来的な分析の説明を
- 他地区からのゴミ捨て防止策は
- 戸別収集の検討は
- 説明会に出られない人へ個別の説明を
- 教育現場での取組について
- 各サークル等へのリサイクル化の支援策について
- 廃油の石鹸化などの市民運動と行政の役割は異なるので、一線を画してリサイクル化の推進を
- 公共施設における分別収集について

◇南極ハイランド事業に関して

- 目的の再確認と今迄の評価は
- 費用効果はどう考えているのか
- 民間による事業評価は受けているのか
- 現状認識に立った強化策は

◇現在増設しているホテルでの老人入浴券の使用許可は

◇北北海道地域国際観光誘致の促進に関して

- 協議会に上川（層雲峡）が入っていないが、実効性の見通しは
- 市が率先して上川、留萌地域と連携を考えては

◇日口フェリー定期航路に関して

- 北海道からの補助金額は
- 千歳とユジノサハリンスク間の航空路問題の実態等と、北海道の考え方は
- 千歳からの航空路問題は、フェリー集客にも影響があるのでは
- 空路にも前向きな検討を
- 北海道にも市と同様の負担を求めては
- 利用率改善に向けての検討や修学旅行での利用の考えは

◇冬季観光振興に大沼を利用、道立ふれあい公園等も含め周辺を体験観光地として開発を

◇カウントダウン事業を北海道の補助があるから行うというのでは、観光振興の基盤整備にならない

◇校内ＬＡＮの整備の進捗状況は

◇情報通信講習会ＰＲの必要性は

◇庁内イントラネット整備に対する市民への周知は

◇廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正に関して（大型ごみの有料化など）

- 大型ごみ有料化と家電リサイクル法について
- 今回の有料化が将来の各種ごみの有料化に繋がらないか
- コンポストの他に生ごみ処理に対して助成検討の可能性は
- 有料化が減量対策やリサイクル方法が明示されず、また、住民意識も変っていない中で進められている。
- 有料化に対する市民の合意が得られていない
- ごみ不法投棄の現状は
- 有料化の検討経過や一律料金とした理由は

◇財産の取得に関して

- 新図書館ができた後も、現図書館の機能を残すと言っているが、従前の発言と異なるので説明を

採択された請願・陳情及び要望意見書

◇稚内市の子どもたちにゆきとどいた教育を保障するため、教職員定数の改善を求める請願及び要望意見書

「いじめ」や不登校、「学級崩壊」など、稚内市の子どもと教育が直面している現状にふさわしく、各学校では、子どもたちへの一層手厚い指導が求められています。

したがって北海道は国の「第七次公立義務諸学校教職員定数改善計画」の不十分さを補完するため、この計画による定数加配の学校での運用と、北海道独自の「学級編成基準」及び「小中学校県費負担教職員定数の配置基準」等を改善するよう求める。

◇地方バス路線維持対策を求める要望意見書について

当管内は、ＪＲが廃止された地域や離島地域を有し、現在これら地域においては、バス路線が唯一の公共交通手段となっております。

したがって北海道は、国の新たな乗合バス制度の実施に伴う地域バス路線確保対策は実情等を踏まえ、地域の人々の日常生活を支えていくための支援システムの確立の実現に取り組むよう強く要望する。

◇乳幼児医療給付制度の創設を求める要望意見書について

北海道では、全国平均以上に少子化が急速に進んでいます。この背景には、子どもを生みづらい、育てづらい社会、労働環境があるとともに、子育てに伴う経済的負担として、乳幼児医療費や教育費が重い負担となっています。又、年々出生率が低下する中、安心して、子供を生み育てられる環境をつくることは、国の責任です。

したがって政府は、乳幼児医療給付事業を国の制度として創設するよう強く要望します。

◇音楽療法士の国家資格制度の創設等を求める要望意見書について

音楽は直接人間の心身に働きかけ、高齢者や病人あるいは心身障害者・児等の健康や心の豊かさなどの活性化に大きな効果を与えることが知られています。音楽療法は音楽の力を活用して対象者の心身機能の回復や健康の維持を図ろうとするものであり、特に、チーム医療の中でその効果を発揮されており、高齢者や心身障害者等に対する有力な医療方法として導入される必要があります。

したがって政府は、音楽療法の国家資格化を実現するとともに、医療保険や介護保険への適用等の措置を講じ、これらの施策を早急に確立するよう強く要望する。

本会議と各委員会の出欠状況

区分／議員名	出席すべき日数（本会議・各委員会）	出席日数	欠席日数	区分／議員名	出席すべき日数（本会議・各委員会）	出席日数	欠席日数
石塚　公次	9	7	2（私）	中井淳之助	15	15	
岡本　雄輔	9	9		藤谷　良幸	9	9	
小林侃四郎	8	8		山田　繁春	6	1	5（私）
田森　和文	15	15		生田目幸男	15	15	
前田　修悦	14	11	3（私）	長谷川喜市	9	9	
河合　慎一	11	11		松本　勝利	8	8	
河野　至緒	8	8		斉藤　信義	9	9	
菅原　清治	9	9		三谷　典子	15	15	
竹村　海一	8	8		魚住　光信	15	15	
三宮　正人	15	15		東方　豊松	15	15	
越後谷亮一	15	15					
鈴木　茂行	9	9					
館農　恒一	14	14					

注：(1)出席すべき日数は、11月28日から１月31日までの状況。
(2)欠席日数欄中(公)は公用、(私)は私用、(病)は病気の意味。

議会日誌

11月

28・**第7回臨時会（本会議）**・議会運営委員会・各会派代表者会議・各会派幹事長会議

12月

4・**第8回定例会（本会議・ナイター）**・議会運営委員会

7・**本会議（ナイター）**・議会運営委員会

8・**本会議（ナイター）**・各会派幹事長会議

11・議会運営委員会・議案特別委員会

12・議会運営委員会・議案特別委員会・各会派幹事長会議

13・**本会議**・議会運営委員会・各会派代表者会議・図書室運営委員会

18・**総務常任委員会**

21・**建設産業常任委員会**

25・各会派代表者会議

1月

16・**民生文教常任委員会**

23・**建設産業常任委員会**・議会だより編集委員会

25・市議会議員共済会理事会（京都市）

29・議会運営委員会道外行政視察（2月1日まで）

3月定例会の日程

2月28日
○**本会議**
・一般行政報告
・予算・条例・単行議案の上程

3月1日～4日　休会

5日～6日
○予算特別委員会

7日～8日
○**本会議（ナイター）**
・代表及び一般質問

9日　休会

○議案特別委員会
・総括質問

12日～15日
○議案特別委員会
・総括質問
・予算・条例・単行議案の審査

16日
○**本会議**

本会議は5階議場で、議案特別委員会は5階正庁の間でそれぞれ開きます。

議会を傍聴しませんか

☆手続きは簡単です☆

◆お問い合せは
議会事務局
（☎23－6161・内線281）まで

小林美和子議員逝く

昨年5月の統一選挙で市議会議員として初当選し、本市発展のために尽力されてきた小林美和子議員（48歳）が、12月25日ご逝去されました。

小林美和子議員は建設産業常任委員会に在席のほか本紙編集委員としてその職務を遂行されておりました。

1月23日開催の建設産業常任委員会において参会者全員で故人の冥福を祈り、黙とうを捧げました。また、2月6日開催予定の臨時会において三谷典子議員が追悼演説を行います。

編集後記

平成12年第8回稚内市議会定例会の内容を記載した市議会だよりをお届けします。

最近では大雪・吹雪・例年より早い流氷の接岸など厳寒期まっただ中ではありますが、市民の皆様健康に留意して21世紀のスタートを共に良い年で過ごしましょう。

編集委員一同